



* 仙台市衛生研究所ホームページ:

<https://www.city.sendai.jp/bisebutsu/kurashi/kenkotofukushi/kenkoiryo/ese/index.html>

今回は 首都圏を中心に流行している 風しん についての特集です

風しんって?

風しんは、風しんウイルスによって引き起こされる急性の発疹性感染症です。風しんウイルスの感染経路は飛沫感染（咳やくしゃみで飛び散ったしぶき（飛沫）を吸い込むことで感染）で、ヒトからヒトに感染が伝播します。

現在、首都圏を中心に風しん患者が増加しており、2018 年は第 45 週（11/5～11/11）時点で全国の患者数が 2,032 人と、全国的に流行した 2013 年以来、5 年ぶりに患者数が 2,000 人を超えています。

<風しんの症状など>

<p>主な症状</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・不顕性感染（感染はしているが症状がない状態）から、重篤な合併症併発まで幅広く、特に成人で発症した場合は、高熱や発疹が長く続いたり、関節痛がひどいなど、小児より重症化する場合があります。 ・主な症状としては、発熱、発疹、リンパ節の腫れなどになりますが、発熱は患者の約半数にみられる程度です。 ・多くの場合、発疹は淡紅色で、小さく、皮膚より少し盛り上がり、全身に広がるには数日間かかることがあります。 ・カタル症状（いわゆる風邪のような症状）や、結膜の充血を伴うことがありますが、麻しんと比較して軽症です。 ・発疹の出る 1 週間前後はヒトに感染させる可能性があります。
<p>潜伏期間</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・感染から 14～21 日（平均 16～18 日）と言われています。
<p>先天性風しん症候群</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・風しんの最大の問題は、風しんに対する免疫が不十分な妊娠 20 週頃までの妊婦が感染したことにより、赤ちゃんが先天異常を含む様々な症状を呈す「先天性風しん症候群」を持って生まれてくる可能性が高くなることです。 ・妊娠中の感染時期により重症度、症状の種類は様々ですが、先天異常として発生するものとして、先天性心疾患、難聴、白内障、色素性網膜症などがあります。 ・妊娠中は風しん含有ワクチンの接種は受けることができません。また、ワクチン接種後は 2 ヶ月間妊娠を避ける必要があります。

全国での風しんの発生状況は？ (2018年)

感染症発生動向調査(国立感染症研究所発行)によると、2018年における全国の風しん患者の報告数は、第45週(11/5～11/11)までで2,032人となっています(図1)。第36週(9/3～9/9)以降は、毎週100人以上の患者が全国で報告されています。

男女別では、男性が1,657人(81.5%)、女性が375人(18.5%)報告されており圧倒的に男性が多くなっています(図2, 図3)。特に30～50代の男性の割合が多くなっており、これはこの年代の男性は過去のワクチン接種率が低いことが原因であると考えられます。

なお、2018年第1～45週までに先天性風しん症候群の報告はありません。

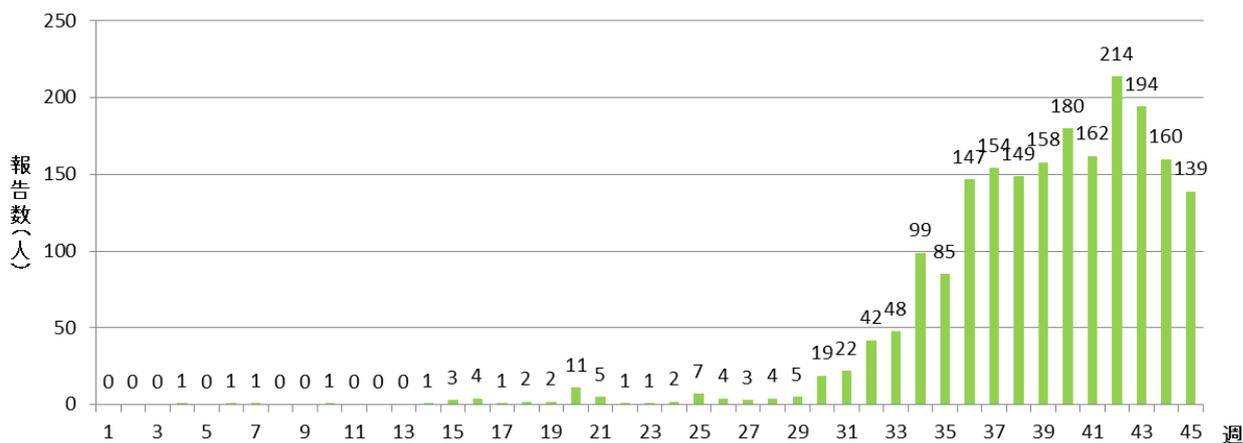


図1 週別風しん報告数(全国・総数) 2018年 第1～45週 (2,032人)

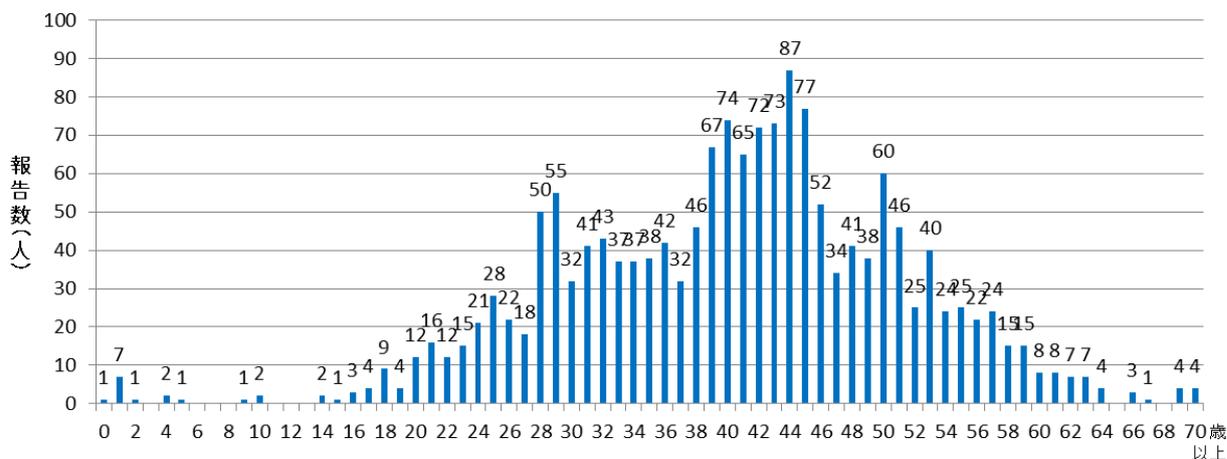


図2 年齢群別風しん累積報告数(全国・男性) 2018年 第1～45週 (1,657人)

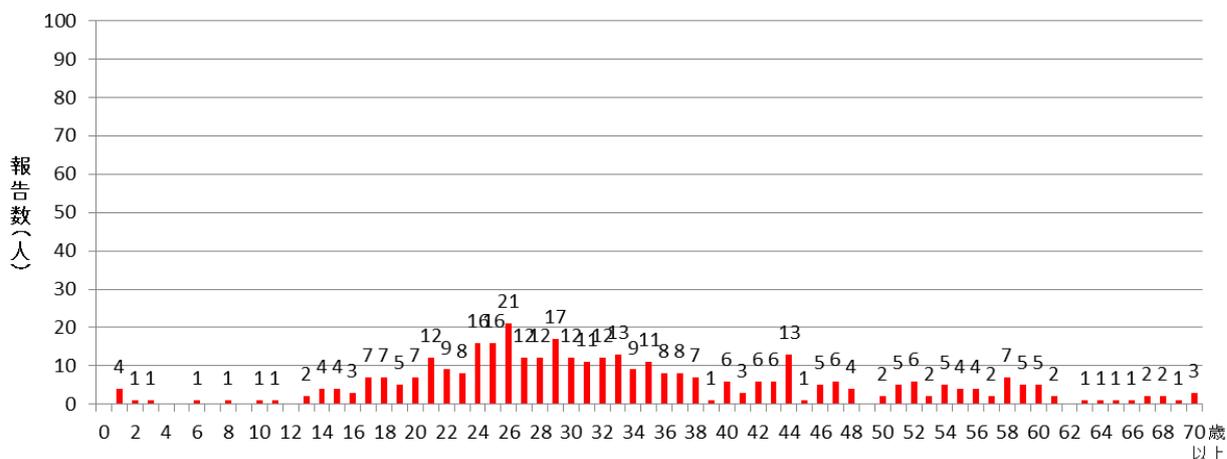


図3 年齢群別風しん累積報告数(全国・女性) 2018年 第1～45週 (375人)

地域別では、2018年第45週現在、東京都、千葉県、神奈川県、埼玉県からの報告が100人以上と多く、愛知県、大阪府、福岡県では50人を超えています(図4)。

首都圏での風しん報告数の増加が継続する一方で、首都圏以外の地域からの報告も増加しており、報告がない県は第45週時点で4県のみ(青森県、高知県、佐賀県、大分県)となっています。

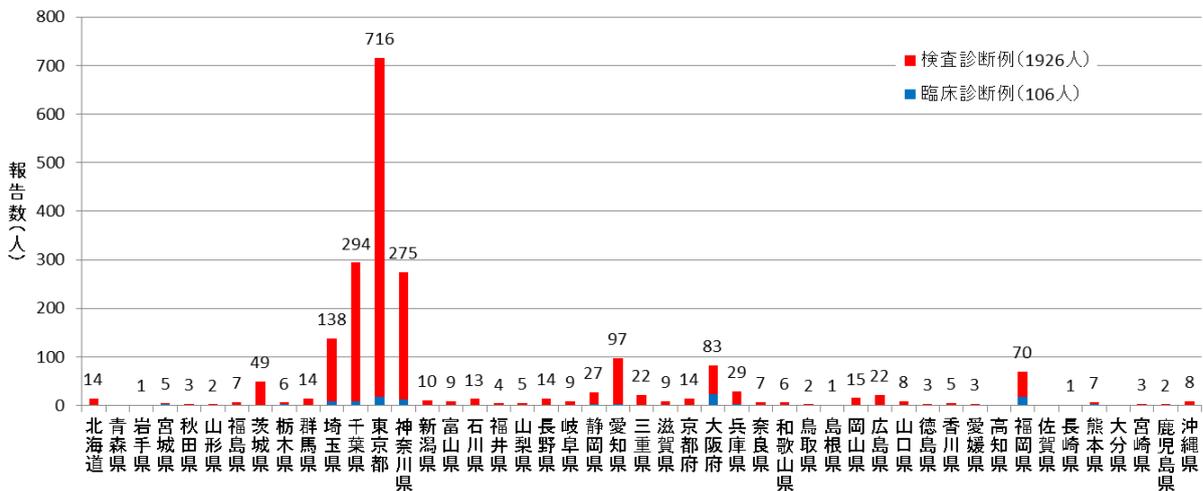


図4 都道府県別病型別風しん累積報告数 2018年 第1~45週 (2,032人)

※図1~4の報告数については、2018年11月14日現在の感染症発生動向調査の週報速報値(暫定値)を用いています。

なお、報告された風しん患者の症状(重複あり)としては、多い順に発疹 2,003人(99%)、発熱 1,822人(90%)、リンパ節の腫れ 1,216人(60%)、結膜の充血 818人(40%)、関節痛・関節炎 494人(24%)、咳 426人(21%)などとなっています。

また、ワクチンの予防接種歴は、なし(505人:25%)あるいは不明(1,394人:69%)となっており、両者で全体の93%と大部分を占めています。

仙台市の状況は? (2018年)

2018年における仙台市の風しん患者の報告数は、第45週(11/5~11/11)までで4人となっています。なお、第1~39週は報告がありません(図5)。

4人の内訳は、男性3人(40~50代)、女性1人(20代)となっており、このうち仙台市衛生研究所で検査(PCR法によるウイルス遺伝子検査)を実施した3人は検査結果が“陽性”であり、検出された風しんウイルスの遺伝子型は、首都圏で多く検出されているものと同じタイプのものでした。

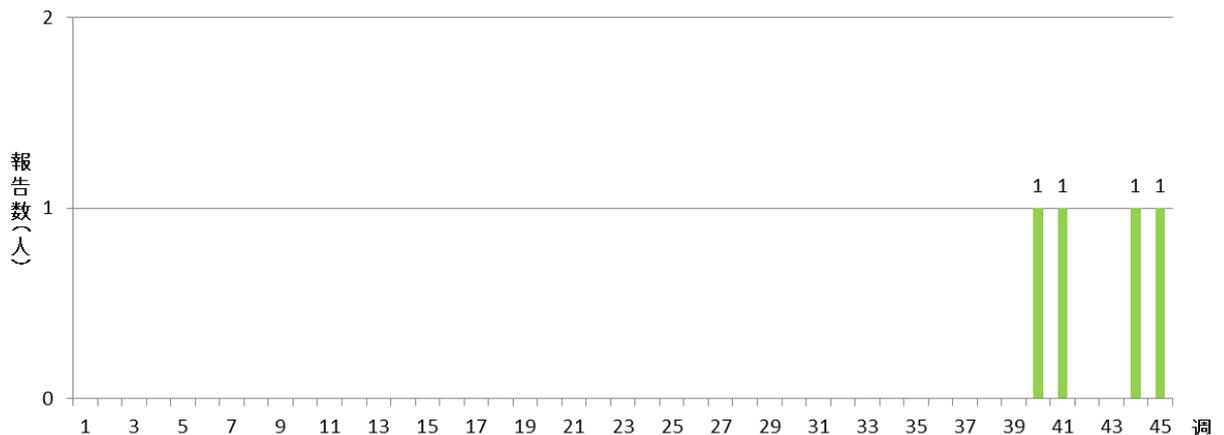


図5 週別風しん報告数(仙台市) 2018年 第1~45週

ワクチンについて

風しんの予防のためには、予防接種が最も有効な予防方法です。

風しんワクチンを接種することで、95%以上の方が風しんウイルスに対する免疫を獲得することができますと言われていています。また、2回の接種を受けることで1回の接種では免疫が付かなかった方の多くに免疫をつけることができます。さらに、接種後年数の経過とともに、免疫が低下してきた人に対しては、追加のワクチンを受けることで免疫を増強させる効果があります。

母子健康手帳等でご自身の予防接種歴を確認し、明らかに風しんにかかったことがある、風しんの予防接種を受けたことがある、または、風しんの抗体が陽性であることが確認できている方以外の方は、積極的に風しんを含むワクチンの接種についてご検討をお願いします。

また、お子さんの麻しん風しんの混合ワクチン(定期予防接種)についても、忘れずに接種してください。

なお、年代別のワクチン接種状況は下図のとおりです。**特に30～50代の成人男性は、定期予防接種が行われていない、または、接種率が低い**ため、免疫がない人が多い世代となっています。

風疹含有ワクチンの定期予防接種制度と年齢の関係
(平成30(2018)年11月1日時点)



※国立感染症研究所ホームページ「風疹流行に関する緊急情報」より引用

風しん抗体検査助成制度について

仙台市では、妊娠を希望する女性、または風しんの抗体価が低いことが判明している妊婦の同居者等に対して風しん抗体検査を無料で実施しています。助成対象には条件がありますので、仙台市のホームページ(下記の参考情報のURL参照)にて制度をご確認ください。

参考情報

国立感染症研究所ホームページ 「風疹とは」

<https://www.niid.go.jp/niid/ja/kansennohanashi/430-rubella-intro.html>

厚生労働省ホームページ 「風しんについて」

https://www.mhlw.go.jp/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryuu/kenkou/kekaku-kansenshou/rubella/

仙台市ホームページ 「風しん抗体検査を無料で実施しています」

<http://www.city.sendai.jp/kenkoanzen-kansen/kurashi/kenkotofukushi/kenkoiryo/kansensho/kanen/kotaikensa.html>



仙台市衛生研究所 微生物課企画調整係
〒984-0002 仙台市若林区卸町東 2-5-10
TEL: 022-236-7722 FAX: 022-236-8601